

電子納品要領（案）の主な改定点

- (1) 地質・土質調査成果電子納品要領（案）
 - (2) 測量成果電子納品要領（案）
-

「地質・土質調査成果電子納品要領(案)」の主な改定点

1 要領(案)の適用範囲の拡大

地質・土質調査成果電子納品要領(案) (以下、「要領(案)」という。) の適用範囲は、これまで地質・土質調査を対象としていました。工事中に実施されるボーリングなどのデータについても広く収集・蓄積し利活用を図るため、工事にまで適用範囲を拡大しました。

2 関連規格との整合化

平成 20 年 3 月 20 日、地質図、工学地質図に係る日本工業規格 (以下、「JIS 規格」という。) が制定・改正されました。

■改正 JIS 規格■

JIS A 0204 地質図—記号, 色, 模様, 用語及び凡例表示
原案作成団体: (独) 産業技術研究所

■制定 JIS 規格■

JIS A 0205 ベクトル数値地質図—品質要求事項及び主題属性コード
原案作成: (独) 産業技術研究所

JIS A 0206 地質図—工学地質図に用いる記号, 色, 模様, 用語及び地層・
岩体区分の表示とコード群
原案作成団体: (社) 全国地質調査業協会連合会
(独) 産業技術研究所、(独) 土木研究所

制定・改正された地質図、工学地質図に係る JIS 規格と要領(案)との整合化を図るため、次の項目を改定しました。

(1) 地質平面図・地質断面図に用いる記号

JIS 規格では地質図に用いる記号が規定されているため、要領(案)において、地質平面図・地質断面図に用いる記号は、JIS 規格に従うことを明記しました。

(2) ボーリング交換用データの改定

ボーリング柱状図には、深度ごとに岩石・土区分、地質時代区分などを記入しますが、JIS 規格では岩石・土区分、地質時代区分の記入項目やコードを定めています。

JIS 規格との整合化を図り、要領(案)において、ボーリング交換用データの記入項目(下記参照)の変更を行いました。

- B 様式について、「土質・岩種区分」から「岩石・土区分」に名称を変更しました。
- 岩石・岩相の記載、互層、混在岩などの記載が可能なように、岩石・土区分の記入項目を変更しました。
- JIS 規格から引用する形で、岩石・土コードを変更しました。
- 形成年代・変成年代、上限・下限を分離して記入できるように、地質時代区分の記入項目を変更しました。
- JIS 規格から引用する形で、地質時代コードを変更しました。

3 地盤工学会のデータシート様式との整合化

要領(案)では、土質試験及び地盤調査を対象としてデータシート交換用データ(XML)の様式を定めていますが、地盤工学会が定めるデータシート様式と、項目名や記号などに齟齬があるため、整合を図る形で要領(案)の修正を行いました。

4 利活用を踏まえた要領(案)の改善

納品された成果の利活用に配慮し、土質試験結果一覧表データ(XML)について、次の改定を行いました。

- 土質試験データ項目の拡張： 土質試験データ項目の利活用状況調査を調査し、利活用頻度の高い50%粒径(D50)、10%粒径(D10)、透水係数(k)を対象に、土質試験結果一覧表データの記入項目を拡張しました。
- ファイル作成単位の変更： これまで、業務単位で作成・納品されていた土質試験結果一覧表データを、GIS等で利用しやすいように、地点単位で作成・納品するように変更しました。

5 他の要領(案)・基準(案)との整合化

CAD 製図基準(案)について改定が予定されていますが、改定予定の CAD 製図基準

(案)と整合を図る形で、要領(案)の見直しを行いました。

- 地質平面図・地質断面図の画像データのファイル形式を **TIFF** または **JPEG** に変更しました。
- 注記、コメントの格納レイヤを **S-DOC** に変更しました。

「測量成果電子納品要領(案)」の主な追加・変更点

1 国土交通省公共測量作業規程改正への対応

国土交通省公共測量作業規程改正に伴い、測量成果品のファイル形式、ファイル命名、フォルダ構成などの見直しを行いました。

(1) 成果等の名称の変更

改正作業規程と整合を図る形で、成果等の名称について、下記のとおり変更しました。

- 「地形測量」の名称を、「地形測量及び写真測量」に変更しました。
- 「拡張 DM データファイル」の名称を、「標準図式データファイル」に変更しました。

(2) 地理情報標準プロファイル (JPGIS) への対応

基盤地図情報に該当する成果は、地理情報標準プロファイル (JPGIS) の仕様に準拠し、納品することを基本としました。

- 基盤地図情報に該当する成果は、JPGIS 準拠形式で納品することを基本とします。ただし、受発注者間協議により他のフォーマット形式での納品も可能としています。
- 製品仕様書、品質評価表、メタデータ、XML スキーマ、コードリストを合わせて納品します。

(3) 電子納品対象成果、ファイル命名の変更

作業規程改正により測量成果等が変更されたため、整合を図る形で電子納品対象成果の見直しを行いました。合わせて、ファイル命名の変更を行いました。

(4) その他の応用測量成果の追加

作業規程改正によりその他の応用測量成果が追加されたため、その他の応用測量成果を格納する「OTHRSOYO」サブフォルダを新設しました。

(5) 管理項目の改定及び新規制定

1) 測量情報管理項目の改定

測量情報管理項目に、第三者機関検定、その他の応用測量成果格納用フォルダに関する項目を追加しました。

2) ドキュメント管理項目の新規制定

製品仕様書などのドキュメントを管理するドキュメント管理項目を新たに制定しました。

2 設計での利用を考慮した測量成果電子納品方法の見直し

測量作業の後工程である設計・施工では、測量成果は CAD データとして利用されるため、測量成果を CAD データとして作成・納品する場合の仕様を新たに決めました。

(1) ファイルフォーマット

測量作業で電子納品する CAD データファイルは、SXF(P21)形式としました。また、SXF のバージョンとレベルは、SXF Ver.3.0 レベル 2 以上としました。

(2) レイヤ構成

設計・施工での利用や基盤地図情報の更新データとしての活用などを考慮して、測量データは、S-SUV 以下のレイヤに格納するなど、CAD データのレイヤ構成を決めました。